

[事業計画名]

最新検査機器を使った高度獣医医療の提供

最新超音波診断装置を導入し、ペットの循環器診療において、より正確な診断につなげる。最新の検査方式を提供することで、診察および治療の精度を上げ、顧客（飼主）の満足度を向上させる。あわせて、競合先との差別化をはかる。



取 り 組 み の 背 景

当社の主な診療動物である犬の飼育数は、平成20年の1,310万頭をピークに平成27年は991万頭まで減少している。また、飼育率（飼育世帯/全世帯数）も20%から15%まで減少しており、今後の人口減少とともに、飼育動物もさらに減少すると予測される。一方、全国の動物病院数は平成16年の9,245軒から平成26年に11,259軒まで増院している。当院の商圈においても、直近の5年間で3軒増えた。飼育頭数は減少傾向にある一方で競合先が増えていることから、今後益々競争が激しくなると予測される。市場環境が厳しくなるなか、動物病院も専門性・特徴を明確にする必要がある。

取 り 組 み の 目 標

- 専門性を明らかにすることで、競合先との差別化を図る
- 専門性の高い医療を提供することで、顧客満足の上昇を図る
- 高度医療の敷居を低くする

取 り 組 み の 内 容

ペットの長寿化に伴って、ペットにおいても心臓病やガンが一般的な疾患となり、死因の上位を占める。これらの疾患の診療において、聴診、血圧測定、心電図測定、レントゲン撮影および超音波検査を行う事が一般的であるが、その中でも超音波検査は必須の検査である。超音波検査は、レントゲン検査と異なり、被爆しないため安全に治療できる。また、超音波診断装置による画像を元に顧客に説明することで、顧客の納得を得やすくなり、スムーズに治療を進めることができるようになる。さらに、心臓の病態評価をリアルタイムで見ることができ、診断のみならず、心機能における重症度評価や予後評価にも応用される。

そこで、最新の超音波診断装置を導入した。最新機種 of 最新検査方式により、従来機以上に優れた画質や機能が検査精度を高める。それにより、今まで分からなかった病気が診断できるようになった。また、同等設備を持つ動物病院は近隣になく、最新超音波診断装置を利用する場合は大阪まで出かける必要があったが、当院が最新超音波診断装置を持つことで、近隣顧客に気軽に高度医療を提供できるようになった。

POINT 1

超音波診断装置・ICU(集中治療室)など最先端医療機器を用意

最新超音波診断装置で、最新測定方式(2D-SET法)が可能となる。最新方式によって、より短時間で検査ができ、ペットの検査ストレスが軽減される。さらに、病態をより鮮明・詳細に把握できるため、治療の選択肢が増える。また、心疾患などの呼吸困難時や重篤な症状に使用するICUも設備し、最先端医療の提供を可能にしている。



最先端機器の例① 最新超音波診断装置



最先端機器の例② 動物用ICU(集中治療室)

POINT 2

外部専門家の知見を活用して、最先端医療を提供する

最先端機器を導入しただけで、誰でも最先端医療ができるわけではない。最先端機器を使いこなすスキルや機器で得られた情報を読み解く知識などが必要になる。そこで、当院では外部専門家の知見を活用している。例えば、当社獣医師は鳥取大学の教授より最新の医療技術および学術指導を受けている。



超音波診断装置の画像

超音波診断装置の画像を大学に送り、治療に関する助言を得る

企 業 概 要

株式会社佐橋動物病院

●事業内容

大切なペットのホームドクターとして、理論と根拠に基づいた医療の提供を行っている動物病院

●主要生産設備

ICU(動物用集中治療室)、半導体レーザー治療器、レントゲン装置、血液検査機器、手術設備、最新超音波診断装置 等

同 社 の 強 み

院長は救急動物病院の勤務を経て開業した。スタッフも救急動物病院の勤務経験者が多い。救急で培った高いスキルが強み。

所 在 地：川辺郡猪名川町上野字北畑23-10
T E L：072-765-3552
設 立：平成23年11月25日
代 表 者：院長 佐橋 悠
従業員数：5人(平成28年6月現在)
資 本 金：500万円

<http://www.sahashi-ah.com/>



株式会社佐橋動物病院

院長

佐橋 悠氏

動物の飼主に寄り添った動物病院であり続けたい

当社は平成23年11月に個人の動物病院を開業し、平成26年10月に株式会社として法人設立した。当社は犬猫等の小動物を対象とした動物病院である。主な業務は動物の疾病に対する診療、手術および保健衛生指導を行う。近年ペットは伴侶動物と呼ばれ、生活に欠かせない重要な家族となっている。ペットの健康面を支え、また飼主に対し飼育方法やしつけなどの指導をする

ことでペットのホームドクターとして人とペットの生活面を支える業務を展開している。

現在では、より専門的な医療を提供できるように、大学に協力を仰ぎ、最も多い病気の一つである循環器疾患の診療に力を入れている。

今後は、より良い獣医医療を提供できるように、最先端の知識と技術を習得する努力を続けると共に、顧客である動物の飼主に寄り添った動物病院であり続ける様、スタッフ同一丸となって頑張っていきたいと思ひます。